

令和4年度四万十川流域の文化的景観情報発信事業 仕様書

1 事業名称 令和4年度四万十川流域の文化的景観情報発信事業

2 目的

四万十川流域の文化的景観は、人と川との関わりが作り出す景観である。特に、山から発する水を生活や農業に用い、各所で漁を行い、遊泳を楽しみ、移動や運搬に利用する等して、日常の中で川の恩恵と脅威を学び、その知識を受け継いできた流域の人々によって支えられてきた。

一方で、近年の地方の過疎化や少子高齢化、第一次産業従事者の減少、は安全を重視した川での遊泳の規制や自粛等により、流域全体に配慮した川及び河川敷の使用、危険な箇所や状況の見極め等、伝えられるべき重要な情報の伝達が途絶えつつある。また、地域の動植物や水に関わる祭礼、年中行事、食文化等、知識や感性の豊かさ、ひいては生活の豊かさに繋がる知識を得る機会を失いつつある。地域の人々に共有されない情報は、来訪者にも伝わり難い。

このため、四万十川の文化的景観の継承は、川を大切に作る人づくりをその中核に置く。今後も川の清流を保ち、その恩恵を流域内外の人々が等しく享受していくためには、知識や情報の収集・充実、その伝達やアクセシビリティ向上の仕組みの考案、川と触れ合う機会の提供等に係る枠組みを設け、関係する個人や団体の取り組みを繋ぎながら、民官の連携によりこれに取り組むことが求められる。

本事業はこのための計画を作成し、現状で不可欠な情報をサインや案内板として設置すると共に、WEBコンテンツの充実を図るものである。また、現地でこれらを活用し、身近な言葉で情報発信を行う人々を育成するための取り組みを合わせて行うものである。

【本事業によって期待される効果】

- 1 文化的景観に関わる地域住民のシビックプライド（地域に共感を生む愛着）の醸成
- 2 川と関わる体験に関する情報発信を通じた、川に関わる災害や事故の伝達による安全・安心に対する意識や理解の向上及びリスクの軽減
- 3 「清流四万十川」だけではない、川の文化を軸とした情報発信による四万十川流域の「川と暮らし」の価値を通じた地域力の向上

3 事業概要

文化的景観の保護意識の素地となる「川と関わる」体験に関する情報提供を文化的景観に関する情報とともに一元的かつ効果的に発信し、流域が一体となって運用していくことができるよう、情報発信に関する計画を作成するとともに、それに基づきサインやWEBコンテンツ等を制作、地域の人々と連携した活用を目指すもので、令和4～5年度の2ヵ年をかけて実施する。

なお、令和4年、令和5年の事業計画は下記のとおりとする。

| | |
|-------|--|
| 令和4年度 | <p>(1) 情報発信基本計画の作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 重要な構成要素である「川と関わる」体験に関する情報の整理 2) 流域での情報発信手法と体系の構築 3) 手法別の情報発信の考え方の整理 4) 流域における情報発信のイメージ基盤を担うVI（ビジュアル・アイデンティティ）の制作 <p>(2) 川を良く知るガイドや地域の受入れ施設等の人々とのワークショップの開催</p> |
| 令和5年度 | <p>(1) 情報発信実施計画の作成と実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) サイン計画（配置計画、設置する種類、規格・デザイン、設計及び概算事業費の算出・設置の年次計画等） 2) WEBコンテンツの制作（ダウンロード用パンフレットのデザイン含む） 3) その他、令和4年度の「情報発信基本計画」において優先的な実施が認められた事項の設置や制作 <p>(2) 川を良く知るガイドや地域の受入れ施設等の人々とのワークショップの開催</p> |

4 令和4年度業務内容

(1) 情報発信基本計画の作成

1) 重要な構成要素である「川と関わる」体験に関する情報の整理

上記に示す3点の実現を目指し、下記に配慮した情報提供を行うため、それらを説明できる情報を収集・整理する。

- ・川との関わりを通じた重要文化的景観のみかた（保存・継承する特徴等）
- ・体験者の段階的な行動に応じた情報（旅程の計画段階、現地到着段階等）
- ・情報提供や指導ができる、地域の人材に関する情報
- ・川遊び等の体験時における安全に関する情報

2) 流域での情報発信手法と体系の構築

1) で収集・整理した情報をもとに、情報発信手法について整理するとともに、効果的な発信や情報入手ができるよう、情報発信の体系について検討する。なお、体系については、運用を行う際、全体像がわかりやすいよう、体系を図化すること。

3) 手法別の情報発信の考え方の整理

2) の情報発信の体系に基づき、手法別に情報発信に関する考え方をまとめる。

- ・サイン設置の考え方（サインの種類、配置と数、規模、デザインの考え方等）
- ・インターネットの活用の考え方

- ・パンフレットの位置づけと活用の考え方
- ・ガイドや地域の人々との交流を通じた発信の考え方

4) 流域における情報発信のイメージ基盤を担うV I (ビジュアル・アイデンティティ)の制作

多様な情報発信の手法に共通のデザインを用いることで、個別の情報の関連性や視認性を向上させ、ひいては四万十川流域の文化的景観のブランドイメージを醸成していくため、ビジュアルの統一を図る基盤となる計画としてまとめる。

流域内外の人々に対し、効果的かつ統一的な視認性を高めることができるよう、ユニバーサルデザインにも配慮し、流域全体での川での体験に関する情報であることを認識できる「ロゴマーク」、端的に注意喚起や楽しみ方等の理解につながる「ピクトグラム」や「アイコン」等の制作(デザイン)を行うこととする。

(2) 川を良く知るガイドや地域の受入れ施設等の人々とのワークショップの開催

「川と関わる」体験を希望する者と地域の受入れ施設やガイド等の双方が情報の受け渡しに関する仕組みやルールを理解している状態を生み出すことが重要である。

そのため、地域の受入れ施設やガイドの方々と勉強会を開催し、体験者に伝えておくべき内容等について共有し、整理を行う。

なお、その内容は体験者にわかりやすいよう、シートとして制作し、運用につながるものとする。なお、その他、施設情報等の掲載に必要な情報については、受託者より提供する。

5 成果品 (令和4年度)

- | | |
|-----------------------------|----|
| (1) 情報発信基本計画書 (デザイン設計図書含む) | 2部 |
| (2) 上記、デジタルデータ (PDF及び制作データ) | 一式 |
| (3) ワークショップ実施記録 (協議概要、写真等) | 一式 |
| (4) 体験者向けシート (原稿データ) | 一式 |
| (5) その他、必要とされる資料 | 一式 |

6 委託期間

契約締結日の翌日 ～ 令和5年3月15日

参考図：重要文化的景観「四万十川流域の文化的景観」選定範囲

